日本語教育ＦＤ研修会実施報告（2020.1 ～ 2020.12）

CEGLOC FD 委員　VANBAELEN Ruth

CEGLOC 日本語教育部門では、例年の場合、各コースで開講している日本語クラスのレベル及び技能間でのアーティキュレーションを円滑にし、授業の質を保つことを目的として、日本語教育部門の専任教員及び非常勤講師を対象とした「日本語教育 FD 研修会」を年に 2 回実施している。しかし、2020 年は新型コロナウイルス感染症が急激的に拡大し、春学期の授業をオンラインで実施することになり通常の研修会に加えて、ツールの練習会、全体的な流れの説明会、授業検討会を数回に亘り実施してきた。また、秋学期の直前にも非常勤講師を対象とした説明会を 3 回に亘り実施した。

詳細は、次の通りである。

1）　2019 年度秋学期終了後の FD 研修会：
　　2020 年 2 月 14 日（金）9：30 ～ 18：00　出席者数：午前 39 名、午後 38 名
2）　2020 年度春学期オンライン授業実施に伴う Zoom 操作練習会：
　　3 月 30 日（月）10：00 ～、14：00 ～　出席者数：午前 21 名、午後 22 名
　　4 月 1 日（水）10：00 ～、14：00 ～　出席者数：午前 19 名、午後 18 名
3）　2020 年度春学期の全体的な流れの説明会：
　　4 月 3 日（金）10：00 ～　出席者数 42 名
4）　2020 年度春学期授業検討会：
　　4 月 7 日～ 9 日　出席者数：各技能の担当教員
5）　2020 年度春学期終了後の FD 研修会：
　　2020 年 8 月 3 日（月）9：30 ～ 18：00　出席者数：午前 35 名、午後 36 名
6）　2020 年度秋学期の方向性についての説明会：
　　2020 年 9 月 28 日（月）12：00 ～　出席者数：24 名
　　2020 年 9 月 29 日（火）12：00 ～　出席者数：15 名
　　2020 年 9 月 30 日（水）12：00 ～　出席者数：16 名

通常の研修会（2020 年 2 月 14 日と 8 月 3 日）の両日とも、CEGLOC 日本語教育部門で開講している、集中日本語、補講日本語、総合日本語、外国語としての日本語、英語プログラム日本語、JEP（Japan-Expert Program）、キャリア支援日本語のコースごとに時間を設け、内容等に関して意見交換を行い、課題について議論を行った。そして例年通り、担当教員が各科目の受講者数や成績の分布、授業内容、評価方法、次の学期の

ための参考点などを「FD 研修会資料」に記入し、資料が記録のため保存されている。春学期終了後の研修会（8 月 3 日）が、オンラインで授業を実施してきて初めての研修会ではあったが、大きな問題は報告されなかった。学生同士や学生・教員間の人間関係作りがすべてのセッションで話題となり、そのほかに受講者のタイピング力の隔たりや、著作権の問題を避けるために海外でも購入可能な教科書を検討すること、テストの工夫や人数調整などが課題として挙げられたが、概ね授業がスムーズにできたという安堵の気持ちが大きかった。しかし、留学生の入国制限に伴う受講者数が秋学期の不安材料として残った。

春学期オンライン授業実施に伴う Zoom 操作練習会では、二日間に亘り計 4 回 1 時間程度、伊藤秀明助教を中心にそれぞれの機能を試す練習会を行った。アカウントの作成や画面共有、ブレイクアウトルームを実際に経験しながら、PC 所持の有無やネット環境、時差のような学生が直面すると思われる問題やその対応策についても検討した。

春学期の全体的な流れの説明会では、日本語教育部門長の小野正樹教授を中心に筑波大学のオンライン授業に関する方針やそれに伴う著作権の問題や教科書の購入方法が説明された。

授業検討会では、予備教育・初級・インプット（＋漢字）・アウトプット・キャリア支援・英語プログラム・交流の日本語の 7 つのセッションに分かれて、コーディネーターと担当教員がコースごとに具体的な授業方法を検討した。

上記のような練習会・説明会・検討会を通して 2020 年度春学期には以前よりも学習管理運営システム manaba が頻繁に利用されると予測ができ、教員全員がアクセスできる練習用 manaba コースページが急遽設置され、多くの教員が当ページで様々な機能の使い方を確認した。

秋学期の方向性についての説明会では、予想される留学生数に伴う科目開講の変更や対策が説明され、教材作成プロジェクトについての案内が行われた。

2020 年度がいつもと異なるニューノーマルがまだ定着していない学年度として記憶に残るだろうが、皆さんの研修会での参加や授業への熱心な取り込みのおかげで学生への教育が障害なくできた年度でもあろう。